

教科(科目)	公民 (現代社会)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 (特進コース選択・一般コース必修)
使用教科書	実教出版「高校現代社会 新訂版」				
副教材等	帝国書院 「ライブ!現代社会2019」				

1 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①基本的な語句やその意味を理解し、社会に活用できる公民としての能力を養います。
- ②基本から応用への学習がスムーズにいくようにし、特別進学コースでは大学受験問題の学習を取り入れるなど、受験学力の養成も工夫します。
- ③日常の新聞やテレビのニュースなどを積極的に活用し、世の中の動きが理解できる人材の育成を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える	①地球環境問題 ②地球環境問題への取り組み ③資源・エネルギー・人口問題	・地球環境問題の現状や要因、影響などについて理解を深める。 ・さまざまな地球環境問題に対する国際社会の取り組みについて理解を深めるとともに、身近な取り組みの在り方について考察する。 ・資源・エネルギー問題の現状について理解を深めるとともに、世界の人口問題と食料・水資源問題の現状を理解し、対策を考察する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・復習プリント ・課題レポート ・ノート、発問に対する回答など
	第2章 科学技術の発達と生命	①現代の医学が問う生死のあり方 ②生命科学の発展と倫理 ③高度情報社会の現状と問題点	・生殖医療や死の問題を考察し、さらに科学技術の発展が人類にもたらす影響を考察する。 ・情報化社会のメリットデメリットを理解し、情報化社会への対応を考察する。	2	
5	第2編 現代社会と人間としての在り方生き方 第1章 青年期と自己形成	①生涯における青年期の意義 ②青年期と自己形成の課題 ③職業生活と社会参加 ④現代社会と青年の生き方	・自己理解を進め、自己形成の課題を考察し、勤労観・職業観を含め、どのように社会参加を果たしていくのか、など自らの人間としての在り方生き方について考察する。	3	

5	第2章 他者と共に生きる倫理	①ギリシアの思想 ②宗教の教え ③人間の尊厳 ④人間の自由 ⑤個人と社会 ⑥人間性の回復 ⑦人間への新たな問い	・哲学の源流や宗教を理解し、「よく生きる」ことを考察する。 ・科学的思考法を理解し、「よく生きる」ことと関連させながら考察する。 ・近代から現代の思想を理解し、「よく生きる」ことを発展させて自らの「生き方」と関連して考察する。	4	・定期考査 ・復習プリント ・課題レポート ・ノート、発問に対する回答など
6	第2章 他者と共に生きる倫理	⑧日本の伝統思想と外来文化の受容	・日本における思想や宗教観を「外来思想」の受容を通して理解し日本人の考え方を考察する	2	
	第3章 現代の国家と民主政治	①日本国憲法の成立 ②平和主義と日本の安全 ③基本的人権の保障 ④人権の広がり	・人権の保障, 国民主権, 議会制民主主義, 権力分立, 法の支配など民主政治の基本原則などについて理解を深める。 ・大統領制や議院内閣制など代表的な政治制度について理解を深める。	5	
7	第4章 日本国憲法と国民生活	①日本国憲法の成立 ②平和主義と日本の安全 ③基本的人権の保障 ④人権の広がり	・日本国憲法の成立過程及び日本国憲法に定める基本的人権の保障について理解を深める。 ・日本の安全を守る安全保障政策について理解するとともにこれからの防衛政策について考察する。 ・生命の尊重, 自由・権利と責任・義務, 人間の尊厳と平等などについて考察する。	6	
8 9	第4章 日本国憲法と国民生活	⑤政治機構と国民生活 ⑥人権保障と裁判所 ⑦地方自治 ⑧選挙と政党 ⑨政治参加と世論	・日本の行政, 立法について理解を深める。 ・司法制度を理解し, 法や規範の意義や役割について理解を深め, 法意識を高める。 ・地方自治の意味を理解する。 ・政治参加の重要性と民主社会において, 自ら生きる倫理について自覚を深めさせ, 主権者としての意識を身に付ける。	10	

10	第5章 国際政治の動向	<ul style="list-style-type: none"> ①国際社会における政治と法 ②国家安全保障と国際連合 ③冷戦期の脅威と冷戦後の脅威 ④軍備競争と軍備縮小 ⑤異なる人種・民族との共存 ⑥国際社会と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際法の意義について理解する。 ・国際連合の目的, 平和と安全を維持する組織構成や取り組みを理解する。 ・第二次世界大戦以降の国際政治体制を理解し, その課題を考察する。 ・核軍拡競争の背景と核軍備管理と軍縮実現の方法を考察する。 ・人種・民族問題の背景と国際的な人権保障の現状を理解し, 人権問題の解決について考察する。 ・国際社会における日本の果たすべき役割や自らの生き方を考察する。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・復習プリント ・課題レポート ・ノート、発問に対する回答など
11	第6章 現代の経済社会と政府の役割	<ul style="list-style-type: none"> ①経済社会の形成と変容 ②市場のしくみ ③現代の企業 ④経済成長と景気変動 ⑤金融機関の働き ⑥政府の役割と財政・租税 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の主体と経済活動の意義, 現代の経済社会の変容について理解を深める。 ・市場機構の機能と限界を理解し, 市場の問題点を考察する。 ・個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する。 ・経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察する。 ・金融, 政府の役割と財政, 租税について理解を深め, 日本の経済政策の方向性を考察する。 	7	
12	第7章 経済活動のあり方と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ①日本経済の歩みと近年の課題 ②中小企業と農業 ③公害防止と環境保全 ④消費者問題 ⑤労働問題と雇用 ⑥社会保障 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の現状がどのように成り立っているのか理解を深める。 ・日本の中小企業や農業の現状を理解し, その課題を考察する。 ・公害の発生原因と対策を通して, 環境への取り組みや循環型社会について考察する。 ・消費者の立場や権利を確認し, 消費者保護について考察する。 ・日本の雇用, 労働, 社会保障について理解を深めるとともに今後の在り方について考察する。 	5	
1 2	第8章 国際経済の動向	<ul style="list-style-type: none"> ①国際経済のしくみ ②国際経済体制の変化 ③金融のグローバル化と世界金融危機 ④地域経済統合と新興国 ⑤ODAと経済協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易に関する基本的立場の違いを確認し, 国際収支表, 外国為替市場を理解する。 ・第二次世界大戦後の国際経済を概観し, 理解する。 ・地域経済統合の目的やグローバル化する世界経済の現状を理解し, 国際経済に与える影響や課題を考察する。 ・国際社会における貧困や格差について理解するとともに, 先進国日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。 	12	

3	第3編 共に生きる社会をめざして	①持続可能な社会のために ②排除しない社会へ ③感染症の治療と予防	・持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を追究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深める	3	・定期考査 ・復習プリント ・課題レポート ・ノート、発問に対する回答など
配当時間 1コマあたりの授業時間				(70) (55分)	

4 課題・提出物等

復習プリント（知識が定着しているかどうか）
 課題レポート（テーマに対して客観的に思考し、主体的に判断し、適切に表現できているか）
 ノート（授業中の取り組みの状況を確認し、意欲・態度をはかる）

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、資料を正確に読み取る力や効果的に活用する力を身につけている。	現代社会の基本的問題と人間の在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ、 ・ 授業の取り組み（授業態度、発言や音読などの様子、学習活動への参加状況など） ・ ノートや提出物（課題レポート）などの提出状況や内容 ・ 定期考査 ・ その他（小テスト）など			
から総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

選挙権年齢も18歳に引き下げられ、今後は成人年齢も引き下げられようとしている。公民としての判断が求められる中で、まずは、基本的な社会のしくみや考え方、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を学習し、社会で起こっている様々な事象を客観的・論理的に理解してほしい。そして、多様化する社会の中で、主体的に思考判断できる力、また、自己の考えを論理的に表現する力を身につけ、自らの生き方を見いだしていってほしい。 (担当：豊岡裕一)